

氏名： 笹村 はるか

実施国： ミャンマー

調査研究

活動名称 途上国における日本語母語話者教師と非母語話者教師の協働に関する現地調査

実施期間 2013 年 3 月 13 日～2013 年 4 月 8 日 (現在も調査結果の分析中)

(1) 申請した動機

途上国では日本語教育環境が整っておらず、教材も少なく、教師に対する研修や情報も足りていないのが現実である。しかしながら現地では熱心に日本語学習に取り組む学習者がいる。私はこれまで、中国、ミャンマーで日本語教師として活動してきた。両活動を通して、環境の整っていない地域ではより母語話者教師 (Native Teacher、以下 NT) のサポートの必要性を感じた。特に現地の教師、学習者両者にとってプラスになる活動として母語話者教師と現地人教師のチームティーチング (Team Teaching、以下 TT) が有効であると実感している。しかしながら日本語教育での TT についての研究は数少ない。私は学習者の視点から、NT と非母語話者教師 (Non-Native Teacher、以下 NNT) の協働のあり方を探り、今後の途上国での日本語教育、ミャンマーでの日本語教育につなげたいと思い、研究しようと考えた。本調査はその研究の資料となるものである。

(2) 活動内容概要

NT と NNT による TT を経験したミャンマー人教師、また TT を受けたミャンマー人学習者に半構造化インタビューを実施した。具体的なインタビュー項目は以下の通りである。

<NNT へのインタビュー>

①TT はどうであったか②日本人教師についてどう思うか③機会があればまた TT をしたいか④どのようなクラスで TT をしたいか⑤TT の良い点は⑥TT の悪い点は⑦NT に何をしてほしいか (NT の強み) ⑧NNT 自身は何ができるか (NNT の強み) ⑨授業外の協働は可能か⑩TT をすることにに関して心配なこと、難しいと思われること

<学習者へのインタビュー>

①TT はどうであったか②日本人教師についてどう思うか③また TT を受けたいか④どのようなクラスで TT を受けたいか⑤TT の良い点は⑥TT の悪い点は⑦TT で NT に何をしてほしいか⑧TT で NNT に何をしてほしいか

インタビューのほか、ヤンゴン市内の僧院、日本語教育機関でミャンマー人教師による日本語授業の観察も実施した。



インタビューの様子



学習者達

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

<活動の成果>

- ①母語話者教師とのチームティーチングを経験したことがあるミャンマー人教師、また、母語話者教師と非母語話者教師によるチームティーチングを受けたことがあるミャンマー人学生に直接インタビューを実施することができた。
- ②自分自身の意見を全面に押し出すことをしないのがミャンマーの人々であるが、今回はリラックスした雰囲気の中、言いにくい点にも触れた発言も見られた。

<苦勞した点・反省点>

- ①ミャンマー政府は変わったことにより、日本をはじめ各国企業がミャンマーに押し寄せてきている。その影響もあり、ホテルやゲストハウスなどの宿泊施設の値段が高騰しており、支援なしに長期滞在での調査は難しいと感じた。
- ②ミャンマー人学習者への日本語でのインタビューであるため、学習者の言いたいことが100%反映されていない結果となる可能性もある。

(4) 今後のプラン

今回の調査で足りなかった部分の補足のため、また、ミャンマーでのTT経験のあるNTへのインタビューのため、再度ミャンマーへ渡航予定である。今回の調査、また今後の調査を分析し、自分自身の考察も加えたうえで、2013年中に論文の形にまとめる。

最終的には、調査した結果をもとに自分自身がNTとして再度海外でのTTを行いたいと考えている。調査の結果を踏まえ、NTとNNTのTTモデルの提案をすることが最終的な目的である。